



碧南ロータリークラブ週報

第3113回例会 令和6年12月11日(水)

- 会長 鈴木 泰博
- 幹事 大竹 密貴
- 会場監督(SAA) 長田 康弘

2024-2025 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 牧野勝俊・杉浦邦彦・岡本耕也



● 斉 唱

ロータリーソング「我等の生業」

● 本日のお弁当

大正館

● 本日のお客様

有松・鳴海絞り 括り職人、彩 AyaIrodori デザイナー 大須賀 彩様

会 長 挨 拶

本日も例会にご出席いただき、ありがとうございます。

昨日、2024-2025 年度の西三河分区の会長幹事会が開催されました。ガバナー補佐の挨拶から始まって、9 地区のクラブの会長が近況報告を行いました。私も同じ気持ちなんですけど、どこの地区も年次総会を終えて次年度が決まったということで、「肩の荷が半分以上下りた。」ということを書いてみました。

いろいろな地区で話が出ていたのですが、一部のクラブからやっぱり運営が難しいということで、会費の値上げの話が出ておりました。碧南 RC も来年度から会費を少し上げさせていただきますので、よろしくお願い致します。

他に議題として挙がっていたのは、

1. インターシティミーティング (IM)

2025 年 2 月 22 日 (土) にリリオ・コンサートホールで行いますので、多くの方に参加してほしいということ。

2. 第 2 回ロータリーフードフェスティバル (RFF)

2025 年 5 月 10 日 (土) と 11 日 (日) に開催されます。碧南 RC としては特別な取り



鈴木泰博会長

組みは行いませんが、チケットの販売をさせていただいて、各自で参加していただければと思います。なお、RFFは来年で終了する予定とのことを言われておりました。

3. 国際大会

2025年6月21日（土）から25日（水）にカルガリーで開催されます。21日（土）にガバナーナイトを行いますので、多くの方に参加してほしいということ。

という内容でした。あとは懇親という形でいろいろな方とお話しさせていただいて、多くの方が「山は越えたんで少しは楽になってきた。」ということを書いてくれました。

話は変わりますが、先週の金曜日と土曜日に富山県射水市に行っていました。前に商工会議所の関係でアイシン軽金属さんに能登半島地震の影響のお話をさせていただいたんですが、その隣の地区にある三協立山、三協マテリアル社の奈呉工場を実際に見せてもらって話を聞かせていただきました。建屋は無事だったんですが、工場内の液状化によって通路の陥没や水溜まりが発生し、一時混乱していたとのことでした。

工場は時間をかけて再開して、現在は問題なく稼働していますが、「BCP（事業継続計画）をきちっとやっても実際は全然違った。計画通りには一切いかなかった。」ということを書いてくれました。私たちもBCPを立てておりますが、もう一回考え直さないといけないかなあということを書きました。地震が来なければ一番いいんですけど、いつどこで起こるかわかりませんので、くれぐれも気を付けていただきたいと思います。

今年の例会はあと年忘れ家族会で終了という形になります。12月21日（土）は楽しくやらせていただきたいと思いますので、よろしく願い致します。

簡単ですが、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- ・ 第6回理事会報告につきましては、幹事報告書の通りでございます。
- ・ 本日、大正館様よりお歳暮をいただきました。どうもありがとうございました。
- ・ 先週に引き続きまして、今週も赤い羽根共同募金の募金箱を回させていただきます。ご協力をどうぞよろしくお願い致します。
- ・ 12月18日（水）は休会になりまして、次回の例会は21日（土）になりますので、お間違いないようお願い致します。なお、バスにお乗りの方は15時30分に商工会議所を出発致しますので、よろしくお願い致します。



大竹密貴幹事

委員会報告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 60 名 (内出席免除者 14 名の内出席者 9 名) 出席者 44 名	
出席対象者 44/55 名	出席率 80.00%
欠席者 16 名 (病欠者 0 名)	

<ニコボックス>

- 鈴木 泰博君 昨日は楽しい時間を過ごすことができました。大竹幹事に大変お世話になりました。ありがとうございます。
- 大竹 密貴君 先週は誕生日プレゼントをありがとうございました。
- 山中 寛紀君 この所、雑用に追われバタバタしています。本日も所用あり早退で失礼しますが、私にとっては本年最後の例会です。皆様どうか良い新年をお迎え下さい。
- 小林 清彦君 本日の卓話講師 有松・鳴海絞、括り職人 大須賀彩さんを紹介させていただきます。
年4回発刊している「広報誌ひまわり」が26年目の今年、100号となりました。今後も当法人の取り組みを地域へ発信していきます。

卓話

「有松絞の今 ~自分らしい彩で伝統を繋ぐ~」

有松・鳴海絞り 括り職人、
彩 AyaIrodori デザイナー 大須賀 彩様



大須賀 彩様

よろしくお願ひします。大須賀彩と申します。それでは、早速お話を進めさせていただきます。

簡単に自己紹介をさせていただき、どのようにして伝統工芸の世界に入っていったのか、また、新しい取り組みなどのお話をできたらと思います。私は1986年生まれの38歳で、碧南市出身です。碧南市出身の私が碧南 RC さんでスピーチさせていただくことに大変嬉しく思います。

20歳の時に大学の授業で有松へ行き、その時に見た技術に感動し、絞りの魅力に取り憑かれました。絞り染めを始めて18年目の職人になります。名古屋学芸大学のファッション造形学科で専任助手として働きながら、老舗ブランド2カ所で10年間弟子入りをし、百貨店で括り実演、ヨウジヤマモトやイッセイミヤケの商品を手掛ける経験をしてきました。そして、絞り、加工、染色、デザインができる職人へと育てていただきました。2017年4月に独立を考

え退職、2018年9月に娘を出産し、2020年8月に旧東海道沿いの有松でアトリエをオープンさせました。

次に絞り染めの種類や歴史についてお話しさせていただきます。絞り染めとは日本に古くから伝わる染色技法で、主に正倉院に残されています。染色技法には、纈纈（こうけち）、臈纈（ろうけち）、夾纈（きょうけち）などがあります。これらを総称して、三纈（さんけち）と呼びます。有松鳴海絞りはこの中の纈纈に当たるものです。絞り染めは、縫う、括る、挟むという3つの動作からできています。たった3つの動作を行い、何らかの形で布に圧力を与え、染料が入らないようにして柄を出していくのが絞り染めです。

次に絞り染めの歴史についてです。桶狭間と鳴海の間は人気のない地域でした。東海道を整備していた尾張藩が、東海道沿いのこの地域に新たな村を開くことを計画し、慶長13年、知多郡全域に高札を掲げ、この地域への移住を呼びかけて、8人によって開かれたのが有松村です。有松は農作地が少ないこともあり、新たな産業として興されたのが有松鳴海絞りはです。有松鳴海絞りは名古屋城築城のために九州から来ていた職人の服から始まりました。その服の絞り模様を見て、知多木綿に絞りを施した手ぬぐいを販売したのが始まりとされています。その手ぬぐいの売れ行きが良かったことから、尾張藩から専売権を与えられ、有松は日本随一の絞り産業として発展し、裕福になりました。その様子は歌川広重や葛飾北斎の浮世絵にも描かれています。

しかし、時代とともに幾度となく衰退の危機に遭ってきました。その度に新しい製品や技法を考え出し、今日まで受け継がれてきたのが有松鳴海絞りはです。現在、技法の種類は100種類以上。世界的に見ても技法の種類が多く、日本の誇れる技術です。世界的にも絞り染めは存在しますが、競い合って技法の数を増やしていったため、有松鳴海絞りはどこよりも技法が多いのが特徴です。

次に私がどのようにして伝統工芸の世界に入っていったのかを少しお話ししたいと思います。ファッション大学で服作りの勉強をしながら、産地に自ら乗り込み、弟子入りをしました。基本、弟子入りは受け入れていませんが、私の他にラオス人の男の子とドイツ人の女の子がいたこともあり、師匠から「1人も2人も変わらないから明日からお前は来い。」という感じで言われ、3人で弟子入りがスタートしました。その後、弟子入りをしながら大学院へ進学し、絞り染めの加工の実験を繰り返し研究してきました。その後、大学で働くという道に進み、学生に教えながら研究論文や作品をコンテストで発表し、実績を積んできました。私の人生の中で大学院という2年間と研究に没頭した助手の4年間は、絞り染めをあらゆる角度から見られるとても意味のある時間でした。

次にアトリエについてです。アトリエを構えて目指しているのは「私ができることを最大限に活かしてみんなを笑顔にしたい！」ということです。アトリエは有松の旧東海道沿いの西側に位置します。手前がアトリエになっており、奥が自宅になっています。1階は染め場、2階は販売スペースになっており、2階にはできたばかりの新作が並んでいます。1階では念願だった染め体験などができるスペースがあり、私の作業場になっています。アトリエで染められるものは、和紙、ハンカチ、手ぬぐい、風呂敷、ストール、のれんなどがあります。小さなお子様から大人まで楽しめる染め体験は、地域活性化とものづくりの楽しさを広める場

として機能しています。

また、アトリエは私の「家庭と仕事を両立する場所」でもあります。妊娠中に建築したアトリエは、子供を見守りながら作業できる夢の設計になっており、私の思いが反映されています。

次に私のものづくりについてです。ものづくりでももちろん笑顔になってほしい、いただきたいという思いで活動しています。私のブランド名にもある「彩」という文字通り、私の作品はカラフルなものが多いです。有松鳴海絞りは紺色のイメージを持っている方も多いのですが、水色やピンクなど、可愛らしいカラーに仕上げることで、巻いて楽しい、飾って綺麗、人にプレゼントしたくなるようなデザインを目指しています。伝統技術を守りながら、ポリエステル素材やサイクルジャージや帽子など、新しいアイテムへの応用も進めています。さらに SNS をフル活用し、毎日制作様子をアップしています。

その他の活動として 2017 年 10 月、私が独立してすぐに「凧九」というグループを結成しました。伊勢根付職人の梶浦明日香さんが女性職人に声を掛け、SNS で広まった仲間で、女性ならではの感性で沢山の人とリンクする、凧とした 9 人の女性という意味も込めて名付けられました。このグループは、根付、絞り染め、一刀彫、七宝、筆、型紙、和紙、組紐、漆という多様な分野の職人が連携を取り、日本の伝統工芸の魅力を広める活動をしています。

最後になりますが、理解のある夫と家族に恵まれ、アトリエを構えることでいろんな人に出会い、さらに思い描いていた夢が実現していています。絞り染めの可能性は無限にあり、組み合わせることで新しいものへとどんどん変化していきます。産地で活動することで、町の活性化とともに私に絞りを教えてくれた産地への恩返しができると考えています。技術を守りながら、若い感性で変えていき、行動することがこれからの職人の役目です。これからも身につけて笑顔になれる商品や絞りの提案をしていきたいと思っています。

発表は以上となります。ありがとうございました。

次回例会案内

令和 7 年 1 月 1 5 日（水）は定款第 7 条第 1 節（d）（1）による休会
令和 7 年 1 月 2 2 日（水）卓話 碧カレッジ 所長 松尾勇氣氏